
日本アフリカ学会第 51 回学術大会
第 2 回サーキュラー送付にあたって

ご挨拶

日本アフリカ学会第 51 回学術大会は、2014 年 5 月 23 日（金）・24 日（土）・25 日（日）の日程で、京都大学稲盛財団記念館と京都大学百周年時計台記念館にて開催いたします。

今大会では、口頭発表 107 件（4 つのフォーラムを含む）、ポスター発表 38 件（1 つのフォーラムを含む）を予定しております。

昨年の東京大学学術大会に続き学会創立 50 周年記念事業として、アジア諸国のアフリカ研究とのネットワーク形成を目指す公開国際シンポジウム（23 日）と、学会設立の黎明期について回顧する講演会（24 日）をおこないます。今回の大会では、会員相互の交流をすすめるためにポスター発表の数を増やし、コアタイムを設けました。また、功労者を顕彰するとともに、会員の集合写真を撮影し 50 周年の記念とする式典を開催します。なお、例年とは異なり総会は 24 日（土）の講演会の前におこないまのでご注意ください。是非、多くの会員にご参加いただき、50 周年の節目にふさわしい活気のある学術大会にしたいと考えております。

皆さまのご参集をこころよりお待ち申し上げます。

2014 年 3 月 31 日

大会実行委員長 梶 茂樹

2014年3月31日

日本アフリカ学会第51回学術大会
第2回サーキュラー

1. 大会日程

2014年5月23日(金) 13:00(受付開始 12:30): 京都大学稲盛財団記念館
公開記念シンポジウム“African Studies meet Asian Studies”

「アジアにおけるアフリカ研究の挑戦とアフリカにおけるアジア研究との接点」

2014年5月24日(土): 10:00(受付開始 9:00): 京都大学百周年時計台記念館

口頭発表、ポスター発表、評議員会、総会、50周年記念講演会・式典、懇親会

2014年5月25日(日): 9:30(受付開始 9:00): 京都大学百周年時計台記念館

口頭発表、ポスター発表(コアタイム含む)

2. 大会会場:

京都大学稲盛財団記念館(5月23日): 京都市左京区吉田下阿達町46

京都大学百周年時計台記念館(5月24日・25日): 京都市左京区吉田本町

会場への公共交通機関

京都大学稲盛財団記念館(5月23日)

***京阪電車**

「神宮丸太町駅」5番出口(出町柳方面)より北へ徒歩5分

***JR、近鉄**

「京都駅」から市バス205/17/4系統で「荒神口」下車、東(荒神橋方向)へ徒歩4分

または京都バス17/55系統で「荒神橋」下車すぐ

***阪急**

「河原町駅」から市バス59/37/17系統で「荒神口」下車、東(荒神橋方向)へ徒歩4分

または京都バス17/55系統で「荒神橋」下車すぐ

***地下鉄**

烏丸線「丸太町駅」から市バス202/204系統で「丸太町京阪前」下車、北へ徒歩5分長崎空港から

京都大学百周年時計台記念館(5月24日・25日)

***京阪電車**

「出町柳駅」2番出口(今出川川端)より東方向へ徒歩10分

***JR、近鉄**

「京都駅」から市バス206系統で「京大正門前」下車後徒歩3分、または市バス17系統で「百万遍」下車後徒歩5分

***阪急**

「河原町駅」から市バス201/31系統で「京大正門前」下車後徒歩3分、または市バス17/3系統で「百万遍」下車後徒歩5分

***地下鉄**

烏丸線「今出川駅」から市バス203/201系統で「百万遍」下車後徒歩5分

アクセス・マップ

京都大学稲盛財団記念館（5月23日）



(<http://jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/access.html>)

京都大学百周年時計台記念館（5月24日・25日）



上記マップの3番(http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/map6r_y.htm)

※両会場とも車でのご来場はご遠慮ください。

3. 研究発表

第2回サーキュラーでは、口頭・ポスター発表のプログラムを別紙として同封します。ただしこれは暫定版で、題目も一部省略していますので、完全なプログラムは第51回大会のウェブサイトからご覧ください。最新のものを閲覧できるようにしています。

第51回大会のウェブサイト：<http://jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/jaas2014/>

口頭発表の時間は15分（発表12分＋質疑応答3分）です。発表会場では、Windows系パワーポイント2010の準備をしております。原則として、パソコンのつなぎ替えはおこなわない方針にいたしますので、いずれのOSをお使いの方も下記のとおり会場にお越しいただき、発表用ファイル（拡張子がpptかpptxのもの）をUSB経由で会場備え付けのWindowsマシンにコピーしてください。ただし、特殊なアプリケーションを使用される場合など、持ち込まれたパソコンへのつなぎ替えを例外的に認めることもあります（会場のプロジェクタはVGA規格となっておりますので、持ち込まれる場合は必要に応じて各自VGAアダプタをご準備ください）。つなぎ替えを希望される場合は、事前に事務局までメールでご連絡ください。また、パソコンで音声を再生したい方も、あらかじめご連絡ください。

発表用ファイルは、USBフラッシュメモリに保存のうえ、以下の要領で準備してください。

24日（土）午前に発表する方 →9時15分から9時45分までに発表会場のPCにコピー

24日（土）午後に発表する方 →12時から13時25分までに発表会場のPCにコピー

25日（日）に発表する方 →24日（土）の15時まで、もしくは、当日9時から9時25分までに、午後発表の方は当日13時25分までにそれぞれ発表会場のPCにコピー

配付資料がある方は、必要部数をご自分でご用意ください。当日に会場でコピーすることはできません。

ポスター発表の発表会場には、貼り付け用のパネルを用意します。ポスター・パネルはタテ210cmヨコ90cmです。パネルにおさまるサイズで作成してください。発表者は学会会場に到着次第、各自でポスターを掲示してください。ポスター発表の時間（コアタイム）は、25日（日）の11時から12時までです。発表者は、この時間帯に必ず自分のポスター付近に待機し、内容について説明してください。なお、この時間帯以外もポスター発表会場は開放されておりますので、学会参加者は自由にポスターを見ることができます。

4. 大会参加費、懇親会費

5月9日（金）までに納入	大会当日
大会参加費 5,000円（学生 3,000円）	大会参加費 6,000円（学生 4,000円）
懇親会費 6,000円（学生 4,000円）	懇親会費 7,000円（学生 5,000円）

5月9日（金）までに会費をお振込みいただくと、上記のように参加費および懇親会費を1,000円ずつ割引いたします。ぜひ、事前振込をご利用ください。

大会参加費と懇親会費の振込先は下記のとおりです。

- ・ゆうちょ銀行振替口座を利用する場合

口座記号番号：00920-2-273870

口座名称：アフリカ学会第51回大会事務局

フリガナ：アフリカカッカイタ`イコ`シ`ユウイッカイタイカイシ`ムキ（字数制限のある場合には、最後まで書かなくても問題ありません）

- ・ゆうちょ銀行以外からの振り込みの場合

銀行名：ゆうちょ銀行 店名：〇九九（ゼロキユウキユウ）店

預金種目：当座 口座番号：0273870

納入期限：**5月9日（金）**（事務処理の都合上、**5月10日（土）以降の振り込みはお受けいたしません**のでご了承ください。）

振込金額：大会参加費のみの場合：5,000円（学生 3,000円）

大会参加費＋懇親会費の場合：11,000円（学生 7,000円）

（恐れ入りますが、振込手数料は各自でご負担願います。）

事前振込は、必ず**大会参加者の名義（フルネーム）でお振り込みください**。また、複数人数分まとめた振り込みもおやめください。振込者の誤認を避けるため、ご協力をお願いします。

5. 宿泊と昼食

宿泊は各自でご予約ください。大会のおこなわれる季節、京都は観光客でたいへん混み合います。宿泊を予定されている方は、早目にご予約を済ませておかれるようお勧めします。

大会期間中の昼食（お弁当）は、準備いたしません。大会会場付近には、生協食堂を含む、食堂やコンビニエンスストアなど、昼食を用意している多くの店舗がございます。研究大会当日には、こうした店舗の情報を提供いたしますので、各自でご対応ください。

6. 託児サービス

第1回サーキュラーでご案内したように、会期中に託児所（無料）を開設します。**対象は小学校2年生までのお子さん**で、開設時間は、5月23日（金）13時から18時まで、5月24日（土）9時30分から19時まで、5月25日（日）9時から16時30分までです。委託先業者は「アルファコーポレーション株式会社（ACSA：公益社団法人全国保育サービス協会正会員）」（TEL：03-5772-1222 担当：小滝(こたき)・佐藤）となります。

利用を希望される方は、必ず5月9日（金）までに以下の情報を電子メールで「アルファコーポレーション株式会社」（yoyaku@alpha-co.com）までお知らせください。1) 保護者氏名（よみがな）・所属・連絡先（含む携帯電話番号）、2) お子さまの人数・年齢・名前（よみがな）・性別、3) 託児希望日及び託児希望時間、4) 託児上の注意点（アレルギー等）。メールの件名は「日本アフリカ学会第51回学術大会 託児室予約」としてください。事前申込みのない方の利用はできません。また、希望者多数の場合には、受け入れられないこともありますのでご了承ください。

2014年度の学術大会に関する情報は、アフリカ学会および第51回大会のホームページからご覧いただけます。学術大会に関するお問い合わせは、下記の事務局アドレスへ直接電子メールを送信いただいても結構です。

大会に関するお問い合わせ

〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町 46

京都大学アフリカ地域研究資料センター

日本アフリカ学会第51回学術大会事務局

E-mail: jaas2014@jambo.africa.kyoto-u.ac.jp

電話 075-753-7803（事務局）、7830（木村）

日本アフリカ学会ウェブサイト：<http://african-studies.com/>

第51回大会ウェブサイト：<http://jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/jaas2014/>

日本アフリカ学会設立 50 周年記念

Commemorative International Conference for 50th Anniversary of Japan Association for African Studies

African Studies meet Asian Studies

「アジアにおけるアフリカ研究の挑戦とアフリカにおけるアジア研究との接点」
(Second Asian Conference on African Studies)

Date: 23rd May 2014(Fri), 13:00-18:00

Venue: Large meeting Room (333) on the 3rd floor of Inamori Foundation Memorial Hall,
Kyoto University (京都大学稲盛財団記念館 3 階大会議室)

Language: English Admission: Free (使用言語: 英語 入場無料 事前申し込み不要)

Organizer: Japan Association for African Studies

This year marks the 50th year since the foundation of the Japan Association for African Studies (JAAS). Tireless scholarly activities and contributions by members since its establishment have positioned this association as a leading Japanese academic society for area studies. After 50 years, the time has come for sharing with the rest of the world the achievements in African studies in Japan that our precursors have accumulated over the years. On the other hand, the need for African studies and factors related to studies continue to diversify and are becoming more globalized, amidst Asian economic development and an increase of its presence within the world community. Challenges for the future include assimilating the international changes in African studies as the source of energy in the development of African studies in Japan. Also, research activities in Africa will require more contributions in the future.

As 60 years have passed since the Bandung Conference, the relationship between Asia and Africa continues to change form while continuing to deepen. As one of the countries of Asia, we would like to take this delightful opportunity to celebrate the 50th year of JAAS. With the coming together of major Asian researchers on African studies and African scholars of Asian studies to share experiences in their respective streams of study, we commence this international conference in the hope of gaining common ground upon which we could base future cooperation for trans-continental research.

Program

Opening Remarks: Shuhei Shimada, President of JAAS, Tokyo University of Foreign Studies

Welcome Speech: Shigeki Kaji, Director of the Center for African Area Studies, Kyoto University

1st Session: African Studies in Asia and Asian Studies in Africa 13:15-15:15

Chair: Yoichi Mine (Doshisha University)

Yongkyu Chang (Hankuk University of Foreign Studies, South Korea)

“Korean African Studies and Its Discontents: Facing with Societal Ignorance and Academic Marginalisation”

Scarlett Cornelissen (University of Stellenbosch, South Africa)

“Asian Studies in South Africa: Reflections on the Past, Present and Future”

Masahisa Kawabata (President, Japan Association for African Studies)
“The Foundation of the Japan Association for African Studies and the Dawn of African Studies in Japan”

Xiaomen Sun (Beijing University of Foreign Studies, China)
“African Studies in China: Opportunities and Challenges”

Ajay Dubey (Jawaharlal Nehru University, India)
“African Studies in India: Geopolitics and Challenges”

Poster Session 15:15-16:30

2nd Session: History of relationship between Africa and Asia 16:30-18:00

Chair: Takuo Iwata (Ritsumeikan University)

Aparajita Biswas (University of Mumbai, President of African Studies Association of India)
“Burgeoning Trade and Investments Relations between India and Africa in Contemporary Times”

Kyudeug Hwang (Hankuk University of Foreign Studies, South Korea)
“Revisiting Developmental State in South Korea: Some Implications for Africa”

Gebre Yntiso (Addis Ababa University, Ethiopia)
“The Developmental State in Ethiopia: Inspirations from Asia, Achievements and Challenges ”

Closing Remarks: Masayoshi Shigeta (Kyoto University)

Conveners:

Takuo Iwata, Ritsumeikan University

Yoichi Mine, Doshisha University

Masayoshi Shigeta, Kyoto University

Co-Organizers:

Center for African Area Studies, Kyoto University

Japan Society the Promotion of Science Grant- in-Aid for Scientific Research (S) “Comprehensive Area Studies on Coexistence and Conflict Resolution Realizing the African Potentials”

Japan Society the Promotion of Science Grant- in-Aid for Scientific Research (A) “Engaged Area Studies in the Arena of African Local-Knowledge Formation and Sharing: Seeking for the New Images of Community”

Contact:

Masayoshi SHIGETA, Center for African Area Studies

Phone/ Fax: 075-753-7831

E-mail: jaas50th@gmail.com

〈 2014年5月23日(金)午後 〉
 京都大学稲盛財団記念館 3階大会議室

12:30	受付 公開記念シンポジウム“African Studies meet Asian Studies” 「アジアにおけるアフリカ研究の挑戦とアフリカにおけるアジア研究との接点」
13:00	
18:00	

〈 2014年5月24日(土)午前 〉
 京都大学百周年時計台記念館

A会場 国際交流ホールII **B会場** 国際交流ホールIII **C会場** 会議室III **D会場** 会議室IV

9:00	受付			
10:00	1 姜明江 京都大学 アフリカにおけるハンセン病者の コミュニティ —植民地期およびポスト植民地期に おけるその形成と変容—	林愛美 大阪大学 「伝統」をめぐる女性たちの葛藤と 新たな選択 —ケニアのマサイ社会における 成女儀礼の実践—	今中亮介 京都大学 マリ農村における共同労働組織の 経済活動 —子ども組織と成人女性組織の 比較から—	藤岡悠一郎ほか 近畿大学ほか ナミビア北中部に広がる 季節湿地環境の多様性と人々の認識 —参加型農村開発に向けた 景観分析—
10:15	2 落合雄彦 龍谷大学 リベリアの産科フィスチュラ	孫暁剛 京都大学 東アフリカ牧畜社会における自然災 害とフードセキュリティ	吉田(古川)優貴 明治学院大学 ケニアの簞の子供のダンスから 「共同性」を再考する	石本雄大ほか 総合地球環境学研究所 ザンビア南部州農村部の小規模農民 による土地資源の利用実態 —家畜飼料の安定的確保のための 放牧ルートの把握—
10:30	3 藤田和佳子ほか 北海道大学ほか タンザニア・ムツワラにおける 立会い出産に関するニーズ調査	波佐間逸博 長崎大学 暴力に抵抗する医療 —ウガンダ北東部カラモジャにおける カリモジョンとドドスの事例から—	田代靖子ほか 京都大学ほか アロマザリング(代理母)行動は 母親の利益になるか? —ロエストモンキーの事例報告—	石川博樹 東京外国語大学 ポルトガル植民地期アンゴラの 農業統計資料
10:45	4 高村美也子 日本アフリカ学会 タンザニア・ボンディ社会におけるHIV 感染予防の啓蒙 —既婚女性組織による子宝祈願 キブングの事例から—	澤田昌人 京都精華大学 コンゴ民主共和国における国連の軍 事行動を検討する —平和構築に必要なことは?—	飯田恵理子ほか 京都大学 西部タンザニア、ミオンボ疎開林に おけるブッシュハイラックスの 巣穴利用	フォーラム 「日本—アフリカ関係史研究の 課題と展望」
11:00	5 浅野英一 摂南大学 アフリカ人道路技術者の課題発見 対処能力を考察する —集団技術研修の現場での ケーススタディ—	島田周平 東京外国語大学 ナイジェリアの地域紛争の 「国際化」を考える	フォーラム 「第3回アフリカ生物学フォーラム —生物学とアフリカの未来—」 足達太郎 東京農業大学 趣旨説明	北川勝彦 関西大学 趣旨説明 溝辺泰雄 明治大学 戦前期日本の知識人の アフリカ思想への知的関心
11:15	6 山田肖子 名古屋大学 学校か徒弟か —ガーナクマン県における 自動車修理技能の形成パターン—	須永修枝 東京大学 未承認国家ソマリランドとディアスポラ —主権国家システムにおける未承認 国家の生命線?—	山根裕美 京都大学 ケニア、ナイロビ国立公園周辺の 人為的景観下におけるヒョウの 保全生態学 坂本亘 岡山大学 東アフリカにおける植物生理学と 作物ストレス科学研究の展開 —アフリカ起源作物ソルガムの ストレス耐性研究について—	北川勝彦 関西大学 第二次大戦後の 日本—アフリカ関係の回顧 牧野久美子 アジア経済研究所 日本における反アパルトヘイト運動
11:30	7 島津侑希 名古屋大学 教員のジェンダー観とその形成要因 —エチオピア農業普及員育成課程の 教員を事例として—	米川正子 立教大学 ルワンダ「政治難民」に対する攻撃 —難民の帰還の権利を実現する ために、ルワンダ政府は 何をすべきか?—	山科千里 京都大学 ナミビア北東部におけるシロアリ塚 植生形成への動物による 種子散布の影響 —アフリカの自然保護区で生物の調 査をすること—	クウェク・アンピア リーズ大学 東京オリンピックにおける日本人の アフリカイメージ スカーレット・コーネリッセン ステレンボッシュ大学 南部アフリカにおける 日本企業の活動 —その過去と現在—
11:45	8 井本佐保里 東京大学 ナイロビスラムの学校空間に 関する研究	片山夏紀 東京大学 ジェノサイド後ルワンダにおける 「被害者」と「加害者」の和解	コメント: 山越言 京都大学	
12:00	昼食・評議員会			
13:30				

〈 2014年5月24日(土)午後 〉

A会場
国際交流ホールII

B会場
国際交流ホールIII

C会場
会議室III

D会場
会議室IV

13:30	9	堀尾藍 INDIGO MAGAZINE ザンビアにおける初等教育 —改善のためのコミュニティー スクール及び教育省の役割—	フォーラム 「アフリカの潜在力を活用した紛争解決と共生の実現にむけて」 太田至 京都大学 アフリカの潜在力を活用した紛争解決と共生の実現にむけて 遠藤真 東京大学 北部ソマリアにおける競合する国家形成と「和解」機能の変容 高橋基樹 神戸大学 不正と不和の間 —ケニアにおける経済的正義をめぐる紛争と共生— 山越言 京都大学 サハラ以南アフリカにおける自然資源管理の紛争的側面 松田素二 京都大学 紛争解決と和解過程におけるアフリカ潜在力の可能性 コメント: 永原陽子 京都大学	沓掛沙弥香 大阪大学 タンザニアにおける言語態度調査(1) —マチャメ語圏及びイラク語圏におけるフィールド調査から—	門村浩 東京都立大学 地球変動の中のアフリカ —サヘルにおける極端気候・気象・水文イベント—
13:45	10	澤村信英 大阪大学 南スーダンの教育統計・政策と学校現場の実態 —ジュバ市内小学校の事例から—		牧野友香 大阪大学 スワヒリ語における動詞派生副詞について	藤田知弘 京都大学 熱帯林の拡大過程における果実食動物の役割
14:00	11	井ノロー善 大阪大学 南アフリカにおける教育の分権化政策と新たな教育格差について		仲尾周一郎 日本学術振興会／京都大学 マラキアのうた —南スーダン・ジュバのクレオール歌謡と近代—	四方篤 東京大学 カメルーン東南部のカカオ栽培における「意図しない多様性」
14:15	12	児玉由佳 アジア経済研究所 エチオピアの土地制度と慣習の相互作用についての予備的考察 —アムハラ州農村部の事例—		溝内克之 公益法人青年海外協力協会 タンザニア・ダルエスサラームにおけるチャガ人の都市組織活動の展開	上田元ほか 東北大学 ケニア・ヴィクトリア湖岸の農林漁村における井戸利用の実態と規則
14:30	13	辻村英之 京都大学 キリマンジャロの農家経済経営 —「アフリカ型」農村開発をめぐって—		仲尾友貴恵 京都大学／日本学術振興会 都市に来る障害者たち —ダルエスサラーム、創造されるネットワークに注目して—	大月義徳ほか 東北大学 ケニア・ヴィクトリア湖岸の農林漁村における自然地理学的土地条件
14:45 15:00		(移動・空き時間)			
15:00		総会(100周年記念ホール)			
16:00		記念講演会(100周年記念ホール)			
18:00		創立50周年記念式典, 写真撮影(100周年記念ホール)			
18:30		懇親会(国際交流ホールI・II・III)			
20:30					

〈 2014年5月25日(日)午前 〉

京都大学百周年時計台記念館

A会場
国際交流ホールII

B会場
国際交流ホールIII

C会場
会議室III

D会場
会議室IV

		受付			
9:00					
9:30					
9:30	14	福西隆弘 アジア経済研究所 マダガスカルにおける政変と労働者の厚生	佐久間寛 東京外国語大学 ガーロコイレ —ニジェール西部農村社会をめぐるモラルと叛乱—	安田章人 九州大学 カメルーン・北部州における遊牧系フルベとスポーツハンティングをめぐるコンフリクト	山内太郎ほか 北海道大学ほか ザンビア共和国農村部に居住する子どもの食事と栄養 —食物摂取頻度質問票の開発と栄養評価—
9:45	15	西浦昭雄 創価大学 東アフリカ・ビール産業のサプライサイド・マネジメント2 —SABMillerグループの販売システム—	岡野英之 日本学術振興会/大阪大学 ふたつの紛争の間で —内戦下のリベリアへと逃げたシエラレオネ人難民の経験—	伊藤千尋 日本学術振興会/横浜国立大学 ジンバブウェ・カリバ湖における漁業パーミットの再分配とその影響	萩野泉ほか 北海道大学 カメルーン南東部のBakaピグミーにおける出生力と時代変化
10:00	16	杉本喜美子 甲南大学 アフリカ 株式市場の形成と発展	阿久津昌三 信州大学 大統領のガバナンス —J.J.Rawlings空軍大尉の事例を中心として—	小林聡史 釧路公立大学 アフリカにおけるラムサール条約加盟国の湿地保全	フォーラム 「野生動物と人間の共生を通じたアフリカ熱帯林の生物多様性保全」 松浦直毅 静岡県立大学 趣旨説明
10:15	17	ジャン・クロード・マスワナ 筑波大学 アフリカとアジア途上国の経済開発比較 1960—2010	八塚春名 日本大学 タンザニアにおける狩猟採集民ハツツアの民族観光の展開 —個人の移動と他民族との関係に注目して—	古澤礼太 中部大学 ガーナ共和国アクラ地区・ガ民族の発酵食文化	中島啓裕 ガボン、ムカラバ・ドウドゥ国立公園の 中大型哺乳類相の特徴 —カメラトラップを用いた大規模調査から— 藤田志歩 鹿児島大学 ゴリラの人づけとストレスのモニタリング
10:30	18	斎藤文彦 龍谷大学 南アフリカのWorking for Waterから考える持続可能な社会への移行	緒方しらべ 総合研究大学院大学 アフリカ美術/アートの実験的研究に向けて —ナイジェリア南西部の都市イレ・イフェにおける「アーティスト」の事例より—	関谷雄一ほか 東京大学ほか ニジェール共和国・ザルマ人の食料保存技術について —その文化的・技術的特徴—	松浦直毅 静岡県立大学 アフリカ熱帯林の保全と地域開発は両立可能か？ —ガボン、ムカラバ・ドウドゥ国立公園における住民参加型事業の取り組み—
10:45	19	濱野ちひろ 法政大学 アフリカの民主主義と地方分権化 —ウガンダを中心に—	下休場千秋 大阪芸術大学 カメルーン、グラスフィールドにおける首長国群の文化資源	砂野唯 京都大学 モロコシ酒パルショータを主食とする人びとの食文化 —エチオピア南部デラシェ地域の事例—	竹ノ下祐二ほか 中部学院大学ほか ゴリラツーリズムの「ベストプラクティス」を求めて コメント: 荒木茂 京都大学
11:00	ポスター発表コアタイム、ポスター賞表彰式(国際交流ホールI)				
12:00	昼食				
12:00					
13:30					

〈 2014年5月25日(日)午後 〉

A会場
国際交流ホールII

B会場
国際交流ホールIII

C会場
会議室III

D会場
会議室IV

13:30 20	<p>坂井真紀子 東京外国語大学</p> <p>マイクロファイナンスの歴史的考察 —アフリカ農村における金銭の 賃借の源流をもとめて—</p>	<p>荒木茂ほか 京都大学</p> <p>持続的農村開発モデルの構築に 向けて —カメルーン森林-サバンナ持続性 プロジェクトの現場から—</p>	<p>永原陽子 京都大学</p> <p>メンディ号事件とケープ社会 —アフリカの第一次世界大戦①—</p>	<p>重田真義 京都大学</p> <p>アフリカ在来知と新たなコミュニティ(1)</p>
13:45 21	<p>成澤徳子 日本学術振興会/京都大学</p> <p>アフリカ農村における女性の現金稼 得と社会関係の形成 —ザンビア・トンガの事例にみる 女性のエージェンシー—</p>	<p>Papa Saliou SARRほか 京都大学</p> <p>Cassava production in Cameroon: Present state and perspectives</p>	<p>網中昭世 津田塾大学</p> <p>労働市場の変容と戦時動員 —アフリカの第一次世界大戦②—</p>	<p>田中利和 京都大学</p> <p>エチオピア中央高原に暮らすオロモの 人びとによる牛耕の潜在力 —アフリカ在来知と 新たなコミュニティ(2)—</p>
14:00 22	<p>神代ちひろ 京都大学</p> <p>ブルキナファソ農村における 女性住民組織の役割 —それぞれによる「開発援助」の 活用—</p>	<p>稲泉博己ほか 東京農業大学ほか</p> <p>カメルーンにおけるキャッサバ加工品 市場の現状 —SATREPS-FOSASプロジェクト 実態調査から—</p>	<p>盛恵子 名古屋大学</p> <p>ティジャーニー教団のセネガルの分派 ニアセンにおける宗教教育タルビヤ —万人に解放された「神を知る」 体験—</p>	<p>有井晴香 京都大学</p> <p>出産を待つ家 エチオピア西南部マーレにおける 新たなコミュニティ —アフリカ在来知と 新たなコミュニティ(3)—</p>
14:15 23	<p>荻谷康太 東京外国語大学</p> <p>ウスマン・ダン・フォディオの思想に おけるハウサランド住民の分類</p>	<p>塩谷暁代 京都大学</p> <p>カメルーン首都ヤウンデにおける 市場商人の資金調達手段と 近年の変化 —都市零細商人の現在—</p>	<p>阿毛香絵 フランス国立社会科学高等研究院</p> <p>メディアを使いこなすイスラーム 神秘主義 —セネガルのムリッド教団の 事例から—</p>	<p>金子守恵ほか 京都大学ほか</p> <p>エチオピアにおけるエンセーテ 繊維製品をめぐる在来知の実践 —アフリカ在来知と 新たなコミュニティ(4)—</p>
14:30 24	<p>海野るみ 日本アフリカ学会</p> <p>歴史の多声性と多義性に関する —考察 —南アフリカ・グリクワを事例に—</p>	<p>市川光雄 京都大学</p> <p>熱帯雨林保全と住民生活 —カメルーンにおけるSATREPSの 事例から(1)—</p>	<p>榎並ゆかり 同志社大学</p> <p>ムリッドのトランスナショナルな移動と 社会的ネットワーク —ニューヨーク・「リトル・セネガル」の 事例から—</p>	<p>西真如 京都大学</p> <p>ケアする女性、声をあげる女性 —アフリカ在来知と 新たなコミュニティ(5)—</p>
14:45 25	<p>村尾るみこ 立教大学</p> <p>紛争後のアンゴラ東部農村における 生活再建</p>	<p>安岡宏和ほか 法政大学ほか</p> <p>カメルーン東南部における狩猟の サステナビリティ —カメルーンにおける SATREPSの 事例から(2)—</p>	<p>藤本武 富山大学</p> <p>エチオピアの農耕民マロの 呪術的信仰 —とくに呪薬と邪視をめぐる—</p>	<p>眞城百華 上智大学</p> <p>越境者から見る エチオピア・エリトリア関係</p>
15:00 26	<p>池野旬 京都大学</p> <p>タンザニアにおける地方経済の展開 —「コモンズ」論の視点から—</p>	<p>平井將公 京都大学</p> <p>カメルーン東南部における 野生果実の結実生態と住民の生業 —SATREPS/森林-サバンナ持続性 プロジェクトの活動(3)—</p>	<p>飯澤良隆 利根エンジニア株式会社</p> <p>マダガスカルの葬式</p>	<p>川口博子 京都大学/日本学術振興会</p> <p>「和解」と「癒し」のあとに —ウガンダ北部の紛争後社会に おける慣習法の運用を事例に—</p>
15:15 27	<p>原子壮太 京都大学</p> <p>タンザニアの政策変容と農民の対応 —ルヴマ州の山村の事例—</p>	<p>戸田美佳子 京都大学/日本学術振興会</p> <p>森林資源をめぐる住民組織と 農耕民-狩猟採集民関係 —カメルーンにおけるSATREPSの 事例から(4)—</p>	<p>宮田寛章 京都大学</p> <p>ナイジェリア南南部における 「子どもの妖術師」現象への対処</p>	

ポスター発表(コアタイム:5月25日(日)11:00~12:00)

国際交流ホールI			
<p>伊藤麻佑子ほか 鹿児島大学ほか</p> <p>エチオピア南部前期更新世コンソ層産 <i>Kobus sigmoidalis</i> (偶蹄目・ウシ科)化石の角芯の形態研究</p>	<p>村橋勲 日本学術振興会/大阪大学</p> <p>内戦後の地域社会の社会変化と 新たなコンフリクト —南スーダン、ロビットの形成と 民族間関係の変化—</p>	<p>浅田静香 京都大学</p> <p>ごみから燃料をつくる —ウガンダ都市部に浸透する新しい 調理用燃料—</p>	<p>手代木功基ほか 総合地球環境学研究所ほか</p> <p>ナミビア北中部のトゥジンビエ耕作地 におけるギョウギシバの分布拡大</p>
<p>仲谷英夫ほか 鹿児島大学ほか</p> <p>エチオピアの前期更新世コンソ層産 <i>Equus</i>属の頭骨について</p>	<p>石原豊一 日本アフリカ学会</p> <p>ソマリランドの今 —ソマリア内戦その後—</p>	<p>萩原卓也 京都大学</p> <p>アスリートとして生きる若者たちと スポーツの在り方 —ケニアにおける自転車競技選手 育成団体への参与観察から—</p>	<p>近藤史 京都大学</p> <p>植林の拡大にともなう 農村金融の浸透 —タンザニア南部・ペナの事例から—</p>
<p>五百部裕ほか 椋山女学園大学ほか</p> <p>アフリカ産オナガザル科霊長類を 研究する意義</p>	<p>青木澄夫 中部大学</p> <p>アフリカの日本人写真師 大橋申廣と K. Tagawa(田川)</p>	<p>稲角暢 京都大学/日本学術振興会</p> <p>ケニアの定住した牧民ポコットに おける放牧管理の変容 —家畜の自律的遊動とホームステッド の外部からの移入者に着目して—</p>	<p>黒崎龍悟 福岡教育大学</p> <p>タンザニアにおけるマイクロ 水力発電と環境保全 —ムビンガ県での取り組み—</p>
<p>佐藤宏樹 京都大学</p> <p>マダガスカル北西部熱帯乾燥林に おける果実食性霊長類の 種子散布者としての役割</p>	<p>川田順造 神奈川大学</p> <p>旧モン王国(ブルキナファソ)の 王朝史を「語る」太鼓は、 どのようにして言葉を伝えるか</p>	<p>縄田浩志 秋田大学</p> <p>雨乞い儀礼に捧げられたウシ、 捧げられなかったヒトコブラクダ —民族集団と国家の境界を越えた セイフティ・ネットの構築—</p>	<p>岩井雪乃ほか 早稲田大学ほか</p> <p>フィールドワークにもとづく研究成果を 社会に還元する試み —NPO法人アフリック・アフリカの 10年—</p>
<p>岡安直比ほか WWFジャパンほか</p> <p>コンゴ民主共和国、マレボ地区の ボノボ保護プロジェクト —バンドゥンドゥ州におけるボノボ 研究とツーリズム開発の 可能性について—</p>	<p>阿部優子 東京外国語大学</p> <p>Persistentアスペクトから見る ベンデ語の辿った路</p>	<p>野口真理子 京都大学</p> <p>エチオピア西南部における高齢者の 居住状況の実際</p>	<p>ポスターフォーラム 「アフリカ漁民の世界」</p> <p>北窓時男 アイ・シー・ネット株式会社 移動する海民 —セネガル北部のゲンダリアンと 呼ばれる海民を事例として—</p>
<p>座馬耕一郎 京都大学</p> <p>マハラ山塊国立公園の境界線「問題」 —地図と実際の不一致—</p>	<p>亀井伸孝 愛知県立大学</p> <p>セネガル障害者調査予備報告 —マイノリティによる資源利用と 共有—</p>	<p>杉山祐子 弘前大学</p> <p>グローバル化するアフリカ農村と 「現金の社会化」</p>	<p>稲井啓之 京都大学</p> <p>西アフリカの内水面における 漁師—商人関係 —チャド湖における鮮魚取引の 事例より—</p>
<p>西崎伸子 福島大学</p> <p>エチオピア西南部の観光開発と 地域社会</p>	<p>園田浩司 日本学術振興会/京都大学</p> <p>「反復」表現から平等主義を再考する —バカ・ビグミーの狩猟採集活動に おける相互行為分析—</p>	<p>原将也 京都大学</p> <p>ザンビアにおける多民族農村の形成 と人びとの生活世界</p>	<p>中村亮 総合地球環境学研究所 スワヒリ海村の干物考 —タンザニア・キルワ島の海産物 保存と経済戦略—</p>
<p>松隈俊佑 京都大学</p> <p>観光ロジックと地方選挙をめぐる 地域住民のポリティクス —ケニア南部のマサイの事例—</p>	<p>佐藤敦 千葉大学</p> <p>開発と嫉妬 —セネガル共和国・セレル人村落 からの一考察—</p>	<p>宮崎英寿ほか 総合地球環境学研究所ほか</p> <p>ザンビア南部州農村部における 生計維持活動 —商業的農業および市場活動に 着目して—</p>	<p>藤本麻里子 京都大学</p> <p>ザンジバル本島のダガー産業に おける漁師-仲買人-商人の 取引慣行と流通構造</p> <p>コメント: 今井一郎 関西学院大学</p>
<p>阪本拓人 日本学術振興会/アジア経済研究所</p> <p>東アフリカ牧畜民社会の広域的分析 —地理空間データの検討を中心に—</p>	<p>松平勇二 名古屋大学</p> <p>ジンバブエ再入植地の霊媒師 —ニヤンドーロ氏族の霊媒師 ピリナガニレを事例に—</p>	<p>佐々木夕子ほか 総合地球環境学研究所ほか</p> <p>西アフリカ・サヘル地域村落における 有用植物とその利用 —ニジェール共和国・南西部を 事例として—</p>	
<p>高林敏之 西サハラ問題研究室</p> <p>トルコ-アフリカ関係に関する 予備的考察</p>	<p>中西美絵 大阪大学</p> <p>南スーダンの女兒保護施設入所児童 の示す問題行動の改善に向けて —あるセンターの取り組みから—</p>	<p>林幸博 日本大学</p> <p>江戸時代の資源循環モデルは アフリカ農村に適用可能か</p>	